

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センタークムレ				公表日	R7年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	38	8	部屋・時間・人数を記入するボードを使用している。部屋の構造化やグループ分けして活動することで、子どもたちが過ごしやすいように工夫している。	十分でない場所、どのような空間が必要なのか確認し、居室を上手く活用していく工夫を検討いく。別棟は古いため、都度の修繕を実施していく。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	29	17	保育士、看護師、管理栄養士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士等有資格者が多数配置されている。職員配置は当日の活動や人数を確認し、全クラスでのバランスを見ながら職員配置を随時調整している。	国の配置基準は満たしているが活動内容や子どもの様子によっては不足を感じることがあるため、臨機応変に対応していく。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	40	6	子どもの姿に合わせて、衝立や棚、マット等で構造化を変えている。個別に合わせた意思を伝達する為のツールを使用している。	建物が古くバリアフリーになっていない箇所が多々ある為、法人内で検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	39	7	毎日玩具の消毒や掃除を徹底している。また月1回全職員で環境整備を実施している。	壊れそうなものや古くなってきたものは見直していく。見落としがちな所も清掃できるよう職員で意識し清掃していく。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	38	8	居室にカムダウンを設置している。また廊下に衝立を置いてクールダウンできる場所を確保する等工夫して行っている。	子ども自ら行きたい・過ごしたい場所を選択できる機会を増やしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	40	6	クラス会議等職員が集まり話し合う場で、課題の抽出、目標設定、振り返り等を行っている。また職員は定期的に目標管理面談や1対1面談で目標設定や振り返りを実施している。	時間勤務職員が参画できていない事がある為、改善検討事項内容に応じて、広く多くの職員が参加できるようにしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	44	2	年に1回保護者向け評価表にて意見を把握する機会を設けている。	頂いた意見に対しての改善を継続して実行し安心して通える、預かれる場所にしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	37	9	職員面談やクラス会議、職員会議等で把握している。必要に応じて改善を行っている。	左記の面談や会議を活用しながら意見を聞き取る機会を設け、必要に応じて改善していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	43	3	また令和3年にメイアイヘルプによる第三者評価を受診している。それを受け改善を行っていることや、改善の進捗状況を報告する機会も設けている。	今後も外部機関による第三者評価を受審し、改善を図っていく事で業務改善に繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	45	1	月に1度程度研修を行っている。不参加職員に向けた動画配信も行っている。	どんな内容の研修を受講したいかアンケートを取って実施していく。	
児童発達支援計画	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	43	3	同法人内の事業所とすり合わせながら作成している。	分かりにくさがあるため誰が見ても分かるプログラムに年毎にプラスアップしていく。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	44	2(うち無効1)	病院やCクムレでの発達検査、保護者のニーズ、職員の見立て等、総合的にアセスメントし様々な職員で検討し計画書の立案を行っている。	専門職やその他職種職員の知見を出し合いながらより細かくアセスメントし計画立案をしていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	44	2	クラス会議や日頃の療育活動の中で、関わる職員で話し合う時間を持つようにしている。その際は子ども本人の望みは何か、子ども軸で話し合うようにしている。	時間勤務職員が参画できていない事がある為、事前に考えを聞き取る等してより多くの職員で検討していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	44	2	目標に対してどのような活動の中でどんな手立てで取り組むか職員間で共有している。また支援後は、職員同士で振り返りをしている。必要に応じてプラン変更も行っている。	目標に対しての手立てや支援方法が職員によって異なっていることがあるため、互いに支援方法を確認する必要がある。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	44	2	太田ステージ、遠城寺発達検査、人との関わりレベルシートを使用している。またOTや法人STの評価を受けている。	OTやSTの専門的知見を今後一層取り入れてアセスメント、支援していく。	

適切な支援の提供	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	44	2	児発ガイドラインに記載している内容を年間指導計画に反映させており、活動内容に繋げやすいようにしている。	児童発達支援ガイドラインに明記されている5領域のねらい・支援内容をより理解し支援や活動に繋げていきたい。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	41	5	クラスや年次・全体で検討したり調整したりして立案している。	定型発達児が年次ごとに地域の園で経験していることを盛り込む等、広い視点でプログラムを検討していく必要がある。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	43	3	各年次ごとに数か月単位でのねらいをもとに月の活動プログラムを作成している。季節に合った活動や制作などをやっている。	項目17のことを取り入れていく。
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	44	2	子どもの状態に合わせて個別・集団・ワーク（独力・チャレンジ課題）等組み合わせ支援している。また集団活動は個々の発達段階やねらいに応じてグループを分けて活動している。	今後も子どもの状況に応じて様々な活動を組み合わせて支援を行っていく。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	44	2	朝の時間に打ち合わせをしている。職員がお互いに声を出し合って、連携を意識するようにしてある。クラスノートも活用している。	勤務時間と打ち合わせ開始時間が合わない為、共有が難しい場合があるため、今後も日々支援の中でコミュニケーションをとったり、クラスノートやクラス会議を活用したりしていく。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	37	9	全員での振り返りを行うことが難しいが、気づいたことはその場で共有し合うようにしている。	その都度伝え合うようにしているが、時間をかけて情報共有し合う時間が取れない為、日々のコミュニケーション、クラスノートやクラス会議を活用していく。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	43	3	記録の徹底は、出来てないかもしれないが、活動の振り返りを職員間ですることで、支援の検証・改善につなげている。クラスノートを利用し、情報を共有している。	日々職員間で支援時の様子を共有しPDCAサイクルで行っていくようにする。
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	44	2	日々子どもの様子を報告し合うことに加え、定期的にモニタリングし、その内容と今後の支援の方向性を保護者に示している。必要に応じてプランの見直しを行っている。	今後も継続していく。
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	45	1	担当者会議、園・学校・リハビリ連携等、その時々で必要な職員が参加している。	限られた職員だけでなく、会議や目的に応じて様々な職員が外部機関と関わる機会を設け、職員の視野や経験を広げていきたい。
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	45	1	相談・病院・訪問看護・園・学校等と必要に応じて連携している。	今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	43	3	併行通園の際は保護者や園と情報共有を行ったり、随時、園に見学に行き支援内容の共有をしたりして、スムーズに移行できるようにしている。また園での支援は、より地域の園で実践しやすい方法を検討している。	子ども達は地域で生活していることを念頭におき、地域で実践できる支援をCクムレ内で行えるように多くの支援のアイデアや引き出しを増やしていきたい。
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	44	2	就学前・退園前には園児の状況をまとめた状況表を作成し、それを用いて関係機関に引継ぎを行い情報共有を図っている。必要に応じて卒園後も情報共有や情報伝達がある。	今後も継続していく。
	(28~30は、センターのみ回答)	43	3	水島地区の児発センターと児童発達支援事業所合同の勉強会を企画・開催し共に質の向上を図っている。	今後も継続し、共に地域の障害児支援における質の向上を図っていく。
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	42	4	必要に応じて外部研修に参加している。参加後は復命を行っている。	支援について外部専門家からアドバイスを受けられる機会を作っていく。
	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	41	5(うち無効1)	児童発達支援センター部会に定期的に参加している。参加後は復命を行っている。	今後も継続して参加し地域の課題を共有し、課題解決の為に連携していく。
	(31は、事業所のみ回答)				
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	46	0	保育園児と行事に参加したりクラス活動に参加したりして交流している。	行事や活動等決められた場所での参加だけでなく、より子ども同士が自然に関わることができる機会を設定していく。

33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	43	3	送迎時・電子ツール・電話・懇談・家庭訪問等で子どもの状況を伝え合うようにしている。	当センターでの姿だけでなく家庭での様子を聞いていくことや、家族の考え方を傾聴した上で、一緒に支援方法を検討し取り組んでいけるようにする。
					参加が難しい方もいる為、日々の支援での実践においてもペアトレの手法をしようしていることが分かるように説明しながら、保護者と共に一緒に支援をしていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	44	2	年2回春と秋にペアレントトレーニングを行っている。	参加が難しい方もいる為、日々の支援での実践においてもペアトレの手法をしようしていることが分かるように説明しながら、保護者と共に一緒に支援をしていく。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	43	3	利用説明会、年度当初の保護者勉強会にて説明を行っている。	保護者に分かりやすく、理解ができる内容にかみ砕いて説明することを心掛けていく。
36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	45	1	計画書作成前や日々のやりとりの中で、保護者のニーズを聞き取っている。	保護者のニーズや職員の見立てだけでなく、子どもの気持ちを軸として支援を検討していく。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	45	1	計画作成時に保護者との面談にて説明を行い、同意を得ている。	職員の説明が中心にならないようにし、保護者の考え方や意見が言いやすい場にしていく。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	46	0	家庭訪問、懇談、日々の送迎時に悩み事の共有、課題整理、対応方法の提案等行ったり、当センターへの支援に繋げたりしている。	保護者の方の気持ちに寄り添い受容・傾聴の姿勢でやりとりをしていく
保護者への説明等	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	44	2	保護者会があり、美化活動、勉強会等を開催している。また保護者会だよりで保護者会の活動を発信したり、勉強会等で得た情報を他の保護者に情報発信したりしている。	きょうだい同士の交流の機会は今後検討し実施していきたい。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	45	1	相談や申し入れの際は、直接・電話・電子ツール等様々な方法で対応している。	思いに寄り添いながら丁寧に対応をしていくことを心掛けていく。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	44	2	情報ごとに年度当初・毎月・随時、発信している。	SNSでの発信が少ない為、当センターでの取り組みを積極的に発信していく。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	45	1	職員は入職時・退職時に誓約書を交わしている。入職時OJTにて十分に伝えている。	適宜個人情報の管理について職員に注意喚起していく。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	46	0	電話・電子ツール・書面・直接等状況に合わせている。子どもには視覚的カード、文字等子どもに分かりやすい方法で行っている。	子どもや保護者が分かる・納得する・意思共有できる方法を検討・実施していく。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	40	6	夏祭りに地域で活躍している住民の方に出し物をしてもらったり、伝統行事を子ども達に教えてもらったりしている。	各種季節行事・ボランティア、避難訓練等、より広く地域住民と一緒に取り組んぐ必要がある。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	46	0	各種マニュアル類は保護者が閲覧できる場所に用意している。毎月、マニュアルをもとに訓練を実施している。	有事の際に迅速に対応できるよう訓練を繰り返し、保護者にも周知していく。
46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	46	0	毎月避難訓練を様々な想定で実施している。また業務継続に向けた法人一斉避難訓練も実施し、災害時に使用する電子ツールで互いの事業所の状況を共有し、避難・応援体制を確認している。ヘルメット、頭巾、消火器、放送機器の使用方法も確認している。非常食を食べる練習もしている。	上記同様のことを継続していく。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	46	0	入園前と入園後に確認し、必要に応じて面談を行っている。入園後も適宜対応している。	服薬管理・てんかん発作時の対応、予防接種歴の確認等、マニュアルを周知することや、マニュアル通りに業務遂行できているか看護師を中心に確認し業務の標準化を図っていく。
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	45	1	入園前と入園後に確認し、必要に応じて面談を行っている。入園後も対応している。	管理栄養士を中心に業務遂行の徹底を行い、安全な給食提供を行っていく。
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	45	1	施設の安全点検を実施している。また戸外へ出る際の注意事項等取り決めをしている。また送迎車・公用車使用時の車両確認、交通ルールを守ることや、事故対応マニュアルの職員周知を行っている。	今後も安全点検を実施することや各種取り決めを職員全員で遵守・実行しながら支援を行っていく。
50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	45	1	避難訓練実施後は電子連絡帳にて、避難時の動き、園児の状況、良かった点や課題点を記入し保護者に報告している。	今後も継続していく。

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	45	1	起こったその日に報告、改善案を検討している。また1か月後に実施内容の確認も行っている。	現在の手順で進めていくことで再発防止に努めていく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	46	0	入職時OJTで伝えている。また全職員対象に虐待防止における研修を実施。毎月虐待にあたる行動や言動を行っていないかクラス会議の中で自らや互いの言動・行動を振り返っている。	虐待防止の視点を高くもっている職員で支援を行っていくために、研修や日々の振り返りを継続していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	46	0	入職時OJTで伝えている。またクラスや職員会議で検討し、保護者説明、記録のサイクルで行っている。また随時身体拘束解除の為の話し合いも実施している。	基本身体拘束は実施しないことを理解した上で、やむを得ない場合は今後も左記の手順で行っていく。